

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300211		
法人名	医療法人社団聖パウロ会		
事業所名	グループホーム明日香 ユニット名 すみれ		
所在地	静岡県浜松市浜北区横須賀63-5		
自己評価作成日	令和3年1月18日	評価結果市町村受理日	令和3年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お互い様の理念のもと職員は一方的な介護をするのではなくその人の出来る事出来ない事、興味があることなど引き出しその人らしく生き生きとした生活が送れるようまた、今までの生活歴やADLに合わせたり家族からの要望や関わりの中で気づいた事を職員同士情報を共有し介護に活かしている。また季節毎に行事を計画し季節感を感じながら日々の暮らしの中の楽しみに繋げている。今はコロナ対策で外出や面会が出来ない分、家族に日々の暮らしを伝えたり、敷地内で楽しめるよう庭を活用しながらおやつを食べたり、外気浴が楽しめるよう対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ人間、助け合い協力し合う「お互いさまの心」を理念に、地域に根付いて19年、「主体は利用者」を基に、家庭的な雰囲気の中、今までの生活が継続できるように支援している。行事や祭典、町内活動、日常の挨拶やゴミ出し等生活での関わりを通して、地域の一員として暮らしている。好きなことやできること、得意なこと等、身についた技能を発揮し、各々役割を担いながら、その人らしい生活が送れるよう支援している。医療機関と提携し、医師の訪問診療や看護師の訪問、急変時は24時間連絡体制が整備されている。医療機関や家族と連携を取りながら、終末期の支援に取り組んでいる。家族へは日々の気づきの連絡、運営推進会議やあすかだよりでの活動報告し、多くの家族が催しに参加できるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お互い様の心」を基にした明日香の理念10か条を職員一同が共有し利用者様が、その人らしく生活できるように支援している	理念「お互いさまの心」を入社時に伝え、勉強会を実施し共有化を図っている。より具体的に理念10か条を意識し、取り組んでいる。職員が良く見える場所に掲示して意識化を図り、日々確認・実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩している時に挨拶を交わしたり、地域の清掃活動や祭典への参加をしている 現在コロナ禍にある為、以前のように地域の活動に参加できていない	地域の行事や祭典、清掃活動等の町内活動や小学校の運動会、敬老会への参加、買い物、回覧板のやり取り、日常の挨拶等、地域の一員として交流している。関係構築の取り組みから地域に認知されている。	地域密着型サービスとして地域に根付いて19年、実践の中で蓄積された知識や技術を今以上に地域に還元することを望む。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常は運営推進会議などの場で直接交流をしながら行なっているがコロナ禍の為、書面にて行なっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍の為、書面での開催としているがアンケートの返信をご家族などからいただきサービスの提供に活かしている	利用者、家族、自治会長、民生委員、行政、地域包括支援センター、職員で構成されており、利用状況や活動、最近の様子が報告されている。敬老会や食事会を兼ねてご家族が参加しやすいように工夫している。助言より、玄関の水はけを良くして、滑らないようにした事例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の書類や電話などで相談等をしている	運営推進会議では、利用者や取り組み状況を積極的に伝え理解を得て、協力関係を築くよう努めている。課題や要望、判断に迷うことなどは、電話連絡、時には出向きアドバイスをもらい、サービスに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての勉強会を行ない職員全員で禁止行為を正しく理解し身体拘束のないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止担当者を中心に、毎月の勉強会や職員会議で、理論や具体的な行為を理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。職員一人ひとりが日々意識しながら、自身や他職員の行動を振り返り実践している。年1回法人で研修会を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行なったりすることで虐待についての理解を深め、見過ごされる事の無いように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する知識を勉強会で学び職員への周知に努め、本人や家族と話し合いを持ちながら支援を行なっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明時間を設け不安等に対して理解・納得を得られるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の分かり易い場所に意見箱を設置しご家族の意見・要望を募っている	日頃から行事や予定を伝えたり、生活状況の報告をしたり言いやすい関係作りに努めている。面会や定期の連絡時書面で意見を伺っている。意見は職員会議やカンファレンス、記録物で共有し運営に反映している。職員の名前がわからないとの声があり対応し、より良い関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談で出た意見や、職員からの意見はリーダー会議等で話し合い、必要に応じて職員会議で伝えている。	ユニットリーダーが率先して日々コミュニケーションを図り、意見を言いやすい環境を作っている。面接や職員会議、申し送り、日常の中で意見を聞いている。コロナ感染で外出制限がある中、事業所内で楽しく過ごすための意見や提案を検討し、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談時にはその都度働き方の意向や今後の方向性についても話をし、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の個性、能力に合わせた仕事量の配分や、今は外部研修に出られない分職員指導や施設内の勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ対策の為、交流する機会がなかったが、個々に同業者から聞いた情報などを参考に感染対策等行うことが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望・不安なこと等を本人から聞いたり、言動から探っている。家族からの情報を基に早期に信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていることや不安に思っていること、要望等を聞いたうえでサービス内容の説明を行い理解していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員一人一人が情報収集・共有することで必要な支援を見極め、必要に応じて歯科往診など外部サービスとの連携をはかっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お互い様の心」の理念のもと、本人の出来る事を見極め活かすことで、頼りにするされる関係を築くことに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でも関係性が切れてしまわない窓越しでの面会でソーシャルディスタンスを保つ努力やリモートでの面会も取り入れている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、会ったり行ったりする事は出来ないが、忘れてしまうことの無いように会話の中で話題としてあげるようにしている。	以前の居住地域の敬老会への参加、家族の協力のもと、神社へお参りに行っている。馴染みの店で買い物したり、友人が訪ねてきたりと関係継続の支援を推進している。現在はコロナ禍で外出できないが、電話や手紙を活用して関係が途切れないように図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用車同士の関係性を考慮した席の配置にする事で心地よく過ごせる環境を作り、関わり合いが持てるように努めている。又、トラブルになりそうな時は、職員が間に入り関係の修復を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してからもご家族を町で見かけたら声を掛けさせてもらったり、連絡を取りながら対応している。退去した利用者の御家族の紹介で入居希望も受けることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしを継続する為に一人ひとりの思いや希望を聞き、何気ない言動からも汲み取るように努めている。	日常の中で一人ひとりの思いや意向を聞いたり、家族からの情報や何気ない話や表情から推察し把握に努めている。最近食べたい物や作りたい物、楽しみたいことを、行事の中で実現することができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの思い出話やご家族から生活歴について詳しく聞き取りを行ない、これまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状態を把握し情報の共有をユニットスタッフで行ない、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を把握し情報の共有と共にカンファレンスを行ない、その時にあった介護計画を作成し必要時にはご家族の協力もいただいている。	介護計画作成時やモニタリングの際、職員や家族、医療やリハビリ担当者、ケアマネジャー等の関係者と話し合い、現状に即した介護計画を立案している。カンファレンスで現状の把握や共有、介護計画に基づいた記録からの評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日常の記録(日々の様子、体調の変化、認知症の症状等)を残し、職員間で情報の共有ができるようにしケアの実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のその時の状態に合わせた支援やその他のサービス利用が行えるように状況の把握と共有をしサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店への買い物や散歩を行なうことで地域資源を活用してきたが、この1年間はコロナ禍の為、地域資源の活用はできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じてかかりつけ医や専門医の受診を受けている。ご家族と相談しながら、介助が必要な方もこちらで送迎のサポートをしている。	受診は、本人や家族の意向を大切にしながら、柔軟に対応している。週1回提携医の訪問診療があり、医療処置が必要な方には、医療機関と連携している。24時間対応の体制が整備され、毎日看護師の訪問がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師に来ている為、ささいな事でも相談できる関係ができており、必要に応じた適切な受診や処置が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、医療側へ迅速に情報提供を行なっている。 退院前に入院中の情報収集を行ない、退院後のサービス提供がスムーズに行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際に、ご家族より重度化した場合や終末期のあり方についての考えや思いを確認した上で施設としてできる事の説明をし方針を共有している。	入居時に「終末期の指針」を基に、重度化や終末期に向けた方針を、本人・家族と意向を聞き確認している。状況の変化に応じて再度確認して、要望により医療機関と連携している。マニュアルが整備され、全職員で支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故対応のマニュアルを作成し、定期的には職員に向けての勉強会を行ない周知することで急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時や水害時に合わせた避難訓練や非常食の炊き出し訓練を年間2回以上行う事で全職員が参加できるように配慮している。 運営推進会議などの場を利用してご家族や地域の方へ災害発生時の協力をお願いをしている。	全職員が参加できるように防災訓練を計画し、実施している。日中・夜間想定での避難訓練、消火器の取り扱い方法を学んでいる。家族や地域の方、小学校に協力依頼して、支援体制構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、その方にあった言葉かけをしている。職員間でも定期的に言動についてはアンケートを行ったり、その都度指導している。	一人ひとりの人間性を尊重して「さん」と呼ぶだけではなく、馴染みの呼称で話しかけている。下着は個人が特定されないように配慮している。職員の言動についてのアンケートを定期的実施し、職員に意識づけをしている。課題は職員会議で検討し、支援に反映している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言動の中から本人の思いや希望を汲み取りながら、過去の情報等は職員が共有し、自己決定できるよう支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや本人の意向、夜間の睡眠状態など考慮しながら、活動と休息のバランスが取れるようサポートし職員の都合に合わせないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の髭剃りや化粧ができるように環境づくりをしたり、好みの洋服を選ぶことができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて盛り付け、食材切り、味噌汁作りなど一緒に行ったり、時にはホットプレートを使用し調理を行なっている。配膳や食器洗いについても自立支援のもとサポートを行なっている。	食事を一口大・ミキサー食・ペースト食とその人に合わせて形態を工夫して、口腔摂取できるように努めている。一人ひとりの力を生かして、食材切りから片付けまで一緒に行っている。秋の味覚を楽しんだりてんぷらを揚げたり、餃子を焼くなど食を楽しむ催しを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事量や形態、使用する道具への配慮をして無理なく摂取できるよう支援している。 食事以外でも、おやつ時や入浴後などに水分を勧めることで1日の水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の状態に合わせ、歯ブラシやスポンジブラシ、口腔ケアシートを使い、清潔が保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況チェック表を活用しながら、排泄間隔を把握し状態に合わせてトイレへの誘導をしたり、布パンツやリハビリパンツ、オムツの使用を検討し必要に応じて尿取りパットのを使用している。 状況を把握することでリハビリパンツから布パン		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取を積極的に促すようにし整腸剤を内服されている方もいる。それでも自然排便が無い場合は、下剤や浣腸など医療と連携し便秘しないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴する順番や時間帯、間隔を配慮し誘うようにして、ゆっくり安心して入浴できるように支援している。	基本は週3回だが、本人の希望に合わせて臨機応変に支援している。好みの入浴物品を使用したり、菖蒲湯やゆず湯で季節を感じ入浴を楽しんでいる。入浴を拒む時は、時間を空けたりタイミングを計ったりして入浴できるように努めている。入浴出来ない場合は、清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のタイミングで休めるように声を掛けたり、寝具を清潔に保てるようにシーツ交換をしたり、エアコンなどで室温を調整するなど環境づくりを行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師の指示の元、処方箋を確認しながら薬の目的等について理解し、個々にしっかり内服ができているか確認を行うようにしている。体調や症状に変化があった場合は、看護師に相談しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った出来る事を探り、自信に繋がったり楽しめるように支援している。広告などを見て食べたい物を聞いて食事のメニューに反映したりと喜びのある生活になるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や桜など季節の花などが咲いている場所へ出掛けるなどしていたが、新型コロナウイルスの影響で敷地外への外出は控えている為、庭を活用し戸外を楽しめるように努めている。	回覧板を届けたり、ゴミ出しに合わせて、買い物やドライブをしている。毎日の散歩に付き添い日常的に外出できるように支援している。コロナ禍で外出制限があるため中庭を活用して、お店屋さんをしたり食事会や花火、お茶を楽しむなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時には所持することへのリスクをご家族に伝え相談している。支払いの際は、財布から本人にお金を出してもらうなど個々の能力に合わせた支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいという希望がある時やご家族からの電話を取り次ぎ、話をされている。毎年、正月にはご家族への年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを一緒に作りフロアに飾ったり、席が分かり易いように個々に応じた座布団を用意している。トイレや浴室など分かるように張り紙を張るなどして、それぞれが居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季折々の飾りは利用者主体で話し合い、好みを取り入れ作っている。トイレや浴室が分かるように工夫して、混乱を防いでいる。定期的に廊下やフロア的环境を見直し、居心地よく暮らせるように支援している。換気に配慮して感染防止を積極的に進めている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席だけではなく、ソファーや和室、廊下の日当たりの良い場所にソファーを置き、それぞれが思い思いに過ごせる場所、空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅等で使い慣れた家具や好みの物を本人の状態に合わせ危険が少なくなるよう配置し、居心地よく過ごせるように努めている。	ホームではエアコンのみ設置しており、馴染みの筆筒やテレビ、仏壇、冷蔵庫などを自宅と同じように置くことができている。環境変化が少ないため、混乱や転倒の予防につながっている。馴染みの物に囲まれ、安心して今までの生活が継続できるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など馴染みのある分かり易い言葉の張り紙をしたり、本人が使いやすい掃除道具等を準備することで「できること」「わかること」を活かして、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	医療法人社団聖パウロ会		
事業所名	グループホーム明日香 ユニット名 ひまわり		
所在地	静岡県浜松市浜北区横須賀63-5		
自己評価作成日	令和2年 月 日	評価結果市町村受理日	令和3年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お互い様の理念のもと職員は一方的な介護をするのではなくその人の出来る事出来ない事、興味があることなど引き出しその人らしく生き生きとした生活が送れるようまた、今までの生活歴やADLに合わせたり家族からの要望や関わりの中で気づいた事を職員同士情報を共有し介護に活かしている。また季節毎に行事を計画し季節感を感じながら日々の暮らしの中の楽しみに繋げている。今はコロナ対策で外出や面会が出来ない分、家族に日々の暮らしを伝えたり、敷地内で楽しめるよう庭を活用しながらおやつを食べたり、外気浴が楽しめるよう対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お互い様の理念のもと介護される一方の立場にならない様、地域との関わりの中、出来る事得意な事が行えるよう日々の暮らしでサポートしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナ対策の為、外部との関わりはほとんどなかったが、毎年地域の行事や、敬老会、回覧板、などの機会に繋げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナのため、直接関わりは持てなかったが、毎年運営推進会議や行事などに参加して頂きながら、理解を深め、地域の方に気遣って頂いたり、地域の方の御家族の介護の相談を受ける事も増えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナのため開催は出来なかったが、書面にてサービスの実際や対応策など報告や、それに対しての意見も頂きサービス向上に活かすことができた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族対応や、取組等伝えながら、アドバイス頂いたり連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内では代表者を決め、職員会議や勉強会を通じて身体拘束廃止への理解を深め、自らの行動や他者の行動についても振り返り身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内では代表者を決め、職員会議や勉強会を通じて虐待防止への理解を深め、自らの行動や他者の行動についても振り返りケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて、後見制度の理解を深め、必要に応じてご家族に制度があることをお伝えしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には書面と共に時間をかけ説明を行ない変更時はその都度書面で説明するとともに、必要に応じて直接お伝えする方法もとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、定期的な連絡時にご家族から頂いた意見は職員同士共有し、対応策等運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談で出た意見や、職員からの意見はリーダー会議等で話し合い、必要に応じて職員会議で伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談時にはその都度働き方の意向や今後の方向性についても話をし、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の個性、能力に合わせた仕事量の配分や、今は外部研修に出られない分職員指導や施設内の勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ対策の為、交流する機会がなかったが、個々に同業者から聞いた情報などを参考に感染対策等行うことが出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には出来るだけ御本人と面談させて頂き、御家族からは本人が困っている事や要望など細かく聞き取りを行ない入居前に御本人の情報を職員全員が把握し関係作りが上手くいくようサポートしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画には御本人の意向はもちろん家族の想いや意見も大切にプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて協力医療機関以外にも、本人が長年馴染んだサービスの継続等対応している。必要の有無を御家族ともよく話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い様の心の理念のもと自立支援をサポートし、力の発揮できる環境を整える事で、頼りにされる関係性がともにできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアに困った際はご家族に相談しながら、時には御協力頂き、病院受診や御本人が不安な時は電話で話して頂くなど助けて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナ対策で外出が出来ないため、電話や手紙を通じて関係が継続できるようサポートしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で談笑したり、寝たきりの方は利用者さんを誘いながら関わることで、利用者自ら居室に遊びに行ってくれる機会も増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してからも、状態が落ち着くまでご家族と連絡を取りながら対応している。退去した利用者の御家族の紹介で入居希望も受けることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ対策で外出や面会が出来ない中、行事は日頃の食事等で、食べたい物を作ったり、庭で遠足気分やデザートバイキング等も行った。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御家族にセンター方式をご協力頂くとともに本人からの何気ない昔話や、御家族からの世間話からも情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画に基づき一人ひとりの心身の状態を見ながら体操や家事を促しその人にあった役割事を無理なく行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を元に現状の課題について現場の職員間や家族専門職の意見も取り入れ話し合いアイデアを出しながら介護計画を見直し本人の現状に即したプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、記録を記入し職員間で情報を共有しながら日々の変化に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の生活スタイルになるべく近い形で過ごせるよう柔軟に対応している。また必要に応じてご家族と協力しながら柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しながら買い物や散歩を楽しみ、筋力維持やADLの維持に繋がっていたが、現在はコロナ対策で地域資源を活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必様に応じてかかりつけ医や専門医の受診を受けている。ご家族と相談しながら、介助が必要な方もこちらで送迎のサポートをしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師に来て頂いているため、ささいな事でも相談でき必要に応じて適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先への情報提供や術後の受け入れなど病院関係者と連絡を取りながらご本人のサポートをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時はもちろん、段階的に本人、家族の意向を確認しながら、方針を共有し、必要であれば、医師看護師を含めた話し合いの場を作り対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については定期的な勉強会はもちろん緊急時のファイルにまとめてあり職員が臨機応変に対応できる体制づくりをしている。また24時間体制で看護師のサポートを受けられるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルのもと年二回の避難訓練をおこなっており、近隣の学校や近隣の方にもご協力頂けるよう伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、その方にあった言葉がけをしている。職員間でも定期的に言動についてはアンケートを行ったり、指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で聞かれたり、過去の情報等は職員が共有し、支援に繋げている。また介護度が重い方でも二択から着るものを選んでもらうなど自己決定を促すよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや本人の意向、夜間の睡眠状態など参考にしながら、活動や休息がバランス良く出来るようサポートしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧のサポートや、服の好みなど御家族にも協力頂くことで、利用者同士も服を誉めあったり良い刺激になっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ盛り付け、食材切り、味噌汁作りなど参加し、配膳や食器洗いについても自立支援のもとサポートを行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減や本人の食事量を目安に日々調節している。また食事形態においても個々に合わせ変えている。水分が少ない方には嗜好品を用いて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせ、歯ブラシや歯間ブラシを使い、清潔が保てるよう支援している。また状態に合わせて口腔ケアを行ったり嚥下体操をあひている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 一人ひとりの力や排泄のパターンを知り、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況チェック表を活用しながら排泄感覚、尿量から状態に合わせて布パンツに移行することもあった。退院後はオムツの状態からトイレ誘導に繋がっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活リハビリはもちろん、階段を使用したり、ラジオ体操をして腸の活性化に努めている。また食事以外でも水分をこまめに出したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数順番意向に配慮しながら個々が入浴が楽しめるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に休息しやすいよう、居室にソファーやコタツ等設置し安心して休める環境づくりに努めている。また昼食後はさりげなく休息を促す等でメリハリのあるリズムがとれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認しながら薬の目的副作用について理解し個々にしっかり内服ができる様支援している。症状に変化があった場合は看護師に相談しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を基に個々にできる役割を促し楽しみ事や嗜好品の摂取を促し気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人お一人の希望を日常生活の中で把握し、ドライブや外出を行っていたが、現在は本人の意向や天候を見ながら庭を活用し気分転換をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時には所持することへのリスクをご家族に伝え相談のもと、金額を考慮し所持して頂いており、本人の安心にも繋がっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族面会時に手紙のやりとりや、年賀状を書いたり、携帯電話を所有し自由に連絡をとる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りや、廊下やフロアなど定期的にソファの配置を見直しながら個々に心地よく過ごせるよう空間づくりを行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外にも廊下や居室にソファを置き、個々に1人や気の合う方と過ごす時間を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の住み慣れた環境を確認しながらも、家具の配置、敷物等転倒のリスクや生活同線を見ながら心地よく安心できる環境づくりを行ない、状態に合わせ家具の配置の移動も行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族に聞き取りを行ないながら、本人の興味や得意分野から自立を促す支援をしている。また台所や掃除道具等も使いやすいよう個々に道具をわけて活動を促している。		